

日本語教育学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 Semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語教育学概論	日本語教育学入門	2	小河原 義朗	3	前期 火曜日 3講時	
日本語教育学基礎演習	異文化コミュニケーション	2	島崎 薫	3	前期 火曜日 5講時	
日本語教育学基礎演習	日本語教育のための日本語分析1	2	小河原 義朗	3	前期 月曜日 4講時	
日本語教育学基礎演習	日本語教育のための日本語分析2	2	小河原 義朗	4	後期 月曜日 3講時	
日本語教育学基礎演習	日本語教育と第二言語習得	2	小河原 義朗	4	後期 火曜日 2講時	
日本語教育学基礎演習	日本に住む外国人と日本語教育	2	島崎 薫	4	後期 火曜日 3講時	
日本語教育学基礎実習	海外インターンシップ	2	島崎 薫	集中(4)	集中講義	
日本語教育学各論	年少者日本語教育	2	高橋 亜紀子	集中(5)	集中講義	
日本語教育学演習	話し言葉の教育	2	小河原 義朗	5	前期 月曜日 5講時	
日本語教育学演習	日本語教育におけるフィールドワークI	2	島崎 薫	5	前期 火曜日 4講時	
日本語教育学演習	日本語コースカリキュラムの評価	2	小河原 義朗	5	前期 金曜日 2講時	
日本語教育学演習	日本語教育におけるフィールドワークII	2	島崎 薫	6	後期 火曜日 4講時	
日本語教育学実習	日本語コース運営の基礎	2	島崎 薫	5	前期 水曜日 3講時 前期 水曜日 4講時	
日本語教育学実習	日本語コースの運営と改善	2	島崎 薫	6	後期 水曜日 3講時 後期 水曜日 4講時	
日本語教育学実習	海外インターンシップ	2	小河原 義朗	集中(6)	集中講義	

科目名：日本語教育学概論／ Teaching of Japanese Language (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB32301, 科目ナンバリング：LHM-LIN205J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育学入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Teaching of Japanese as a Second Language
3. 授業の目的と概要：日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の声を通じて全体を概観する。同時に、普段当たり前のように使っている日本語、そして実際に生活している日本社会を外から俯瞰して眺め、社会における日本語教育の意義・役割について理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of Japanese language teaching and opportunities to see Japanese language communication objectively to help students learn about the significance of teaching Japanese in our society.
5. 学習の到達目標：(1)日本語教育とはどのような分野であるのか理解し、具体的にイメージできる。
(2)日本語教育を通して日本語や日本社会を客観的に捉えることができる。
(3)日本語教育の意義、社会における役割について理解し、自分のことばで説明できる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:
 1. understand what is Japanese language teaching
 2. see Japanese society objectively through Japanese language teaching
 3. understand the role of Japanese language teaching in society and explain it
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 日本語教育を取り巻く社会情勢
 2. 日本語教育の変遷
 3. 国内外の日本語教育
 4. 日本語教師
 5. 日本語教育の方法1
 6. 日本語教育の方法2
 7. 日本語教育の現場を知る1
 8. 振り返り1
 9. 日本語教育の現場を知る2
 10. 振り返り2
 11. 日本語教育の現場を知る3
 12. 振り返り3
 13. 日本語教育の現場を知る4
 14. 振り返り4
 15. まとめ、日本語教育の役割※4回の「日本語教育の現場を知る」では、実際の日本語教育や支援の各現場からゲストスピーカーを招く予定である。そのため、全体の流れも変更になることがある。
8. 成績評価方法：

レポート40%・課題60%
9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。
10. 授業時間外学習：指定された資料を読んだり、ビデオを視聴したりする。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
4回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学基礎演習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB32505, 科目ナンバリング：LHM-LIN223J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：異文化コミュニケーション

2. Course Title (授業題目)：Cross-cultural communication

3. 授業の目的と概要：この授業では、日本語学習者との会話セッションを通して日本語を母語としない日本語学習者との異文化コミュニケーションへの理解を深め、円滑なコミュニケーションができるようになることを目指す。日本語学習者との会話セッションへの参加経験、論文の講読や講義、他の受講生とのディスカッションをしながら異文化コミュニケーションについて考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to deepen students' understanding of cross-cultural communication with non-native speakers of Japanese through conversation sessions, while also enabling them to communicate smoothly. Students will consider cross-cultural communication through the experience of participating in conversation sessions with learners of Japanese, reading papers, lectures, and discussions with other students.

5. 学習の到達目標：・コミュニケーション能力とは何かを説明することができる

・日本語教育を行う上で必要なコミュニケーション能力を向上させることができる

・異なる文化背景をもつ人々との円滑なコミュニケーションを行うために必要な知識とスキルを理解し、実践することができる

・円滑なコミュニケーションを実現するための言語・非言語行動の様相や方略について理解し、実践することができる

・異文化接触によって生じる問題とその解決、その際の学習者の心的側面について理解する

多言語・多文化社会について理解し、異なる文化・言語を持つ人々

6. Learning Goals(学修の到達目標)：-To be able to explain what communicative competence is

-To be able to improve communication skills necessary for teaching Japanese

-Understand and use the knowledge and skills necessary for smooth communication with people from different cultural background

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 (4/9)：イントロダクション

第2回 (4/16)：コミュニケーションとは①

第3回 (4/23)：コミュニケーションとは②

第4回 (5/7)：言語的・非言語的コミュニケーション

第5回 (5/14)：コミュニケーションの背景にある異文化

第6回 (5/21)：コミュニケーション能力とは①

第7回 (5/28)：コミュニケーション能力とは②

第8回 (6/4)：日本語学習者の日本語①

第9回 (6/11)：日本語学習者の日本語②

第10回 (6/18)：日本語母語話者の日本語①

第11回 (6/25)：日本語母語話者の日本語②

第12回 (7/2)：接触場面でのコミュニケーション

第13回 (7/9)：コミュニケーションストラテジー

第14回 (7/16)：異文化コミュニケーションと社会

第15回 (7/23)：まとめ

4/30 は休講予定です。

8. 成績評価方法：

授業への参加態度 30%、授業での課題（毎週のラーニングジャーナルを含む）30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：この授業では、第2回目の授業から第14回目の授業まで 17:30-18:30 に実施する日本語学習者との会話セッションに参加してもらいます。授業の終了は 18:30 になります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語教育学基礎演習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

Semester : 3 単位数 : 2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB31303, 科目ナンバリング：LHM-LIN226J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育のための日本語分析 1
2. Course Title (授業題目) : Japanese Language Analysis for teaching Japanese language
3. 授業の目的と概要：日本語そのものに関する知識を学習者に正確に伝えるために、日本語を分析的に捉える方法を理解し、分析し、具体的な授業実践と結び付けて考えることを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The aim of this course is to help students understand how to view the Japanese language analytically for teaching Japanese language and connect this way with Japanese teaching practices.
5. 学習の到達目標：(1) 日本語教育のための日本語の基礎を理解し説明できる。
(2) 日本語教育の観点から日本語を分析することができる。
(3) 日本語の分析を日本語教育の実践と結び付けて考えることができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : After completing this course, students will be able to:
 1. understand how to view the Japanese language analytically for teaching Japanese language
 2. analyze Japanese language by using this view
 3. consider it relating to Japanese teaching practice
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 日本語教育の参照枠
 3. 日本語教育のための音声・音韻①
 4. 日本語教育のための音声・音韻②
 5. 日本語教育のための音声・音韻③
 6. 日本語教育のための文字・表記①
 7. 日本語教育のための文字・表記②
 8. 日本語教育のための文字・表記③
 9. 日本語教育のための形態・語彙・意味①
 10. 日本語教育のための形態・語彙・意味②
 11. 日本語教育のための形態・語彙・意味③
 12. 日本語教育のための文法
 13. 教案作成
 14. 模擬授業
 15. 期末テスト
8. 成績評価方法：

期末テスト 30%・クイズ 30%・課題 40%
9. 教科書および参考書：

『みんなの日本語 初級 1』スリーエーネットワーク
『Situational Functional Japanese 1』凡人社
10. 授業時間外学習：毎回授業の始めに前回の内容理解を確認するクイズを行うため、復習して次回授業に臨む。事前課題があるときは、期日までに提出し、授業に持参すること。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
日本語教育学概論を履修していること。
3 回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学基礎演習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB41303, 科目ナンバリング：LHM-LIN227J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育のための日本語分析2
2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Analysis for teaching Japanese language
3. 授業の目的と概要：日本語そのものに関する知識を学習者に正確に伝えるために、日本語を分析的に捉える方法を理解し、分析し、具体的な授業実践と結び付けて考えることを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students understand how to view the Japanese language analytically for teaching Japanese language and connect this way with Japanese teaching practices.
5. 学習の到達目標：(1)日本語教育のための日本語の基礎を理解し説明できる。
(2)日本語教育の観点から日本語を分析することができる。
(3)日本語の分析を日本語教育の実践と結び付けて考えることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:
 1. understand how to view the Japanese language analytically for teaching Japanese language
 2. analyze Japanese language by using this view
 3. consider it relating to Japanese teaching practice
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 日本語教育の参照枠
 3. 日本語教育のための文法①
 4. 日本語教育のための文法②
 5. 日本語教育のための文法③
 6. 日本語教育のための文法④
 7. 教案作成
 8. 模擬授業
 9. 日本語教育のための語用論①
 10. 日本語教育のための語用論②
 11. 日本語教育のための語用論③
 12. 日本語教育のための語用論④
 13. 教案作成
 14. 模擬授業
 15. 期末テスト
8. 成績評価方法：

期末テスト 30%・クイズ 30%・課題 40%
9. 教科書および参考書：

『みんなの日本語 初級1』スリーエーネットワーク
『Situational Functional Japanese 1』凡人社
10. 授業時間外学習：毎回授業の始めに前回の内容理解を確認するクイズを行うため、復習して次回授業に臨む。事前課題があるときは、期日までに提出し、授業に持参すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
日本語教育学概論、日本語教育学基礎演習（前期）を履修していること。
3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学基礎演習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：4 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB42206, 科目ナンバリング：LHM-LIN224J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育と第二言語習得
2. Course Title (授業題目)：Second Language Acquisition Research
3. 授業の目的と概要：日本語を教えるための理論的アプローチの一つとして第二言語習得研究を取り上げる。第二言語習得の基本的な考え方を理解し、具体的な教材や教室活動と結び付けて捉えることによって、第二言語習得理論を踏まえた授業実践について考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand the basic knowledge of SLA and consider it relating to various teaching practice(teaching materials and classroom activities)
5. 学習の到達目標：(1)第二言語習得の基本的な考え方を理解し説明できる。
(2)第二言語習得研究の知見を日本語教育の具体的な授業実践と結び付けて考えることができる。
(3)第二言語習得研究の方法論を自らの研究に活用することができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to be able to:
 1. explain the basic knowledge of SLA
 2. consider it relating to practice in Japanese language teaching
 3. apply it to their own study.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 第二言語習得研究
 3. 中間言語
 4. 母語の影響
 5. 習得順序
 6. インプットとアウトプット
 7. インターアクション
 8. 教室における学習①
 9. 教室における学習②
 10. 教室における学習③
 11. 教室における学習④
 12. 教案作成
 13. 模擬授業
 14. 振り返り
 15. テスト
8. 成績評価方法：

テスト50%・課題50%
9. 教科書および参考書：

大関浩美(2010)『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版
10. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
日本語教育学概論・日本語教育学基礎演習(前期)を受講済みであること。
3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学基礎演習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB42304, 科目ナンバリング：LHM-LIN225J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本に住む外国人と日本語教育
2. Course Title (授業題目)：Foreign Residents and Japanese language education
3. 授業の目的と概要：この授業では、日本語学校に通う留学生や技能実習生、外国人介護職員など日本に暮らす多様な外国人について知るとともに、彼らがどのような言語・文化背景をもち、どのような環境にいるのか、そして彼らはどのような問題や課題を抱えているのかについて理解を深めることを目的とする。ゲストを授業に招いてディスカッションやインタビュー活動を行ったり、授業時間外にフィールドワークに出かけたりするなど、実際に日本で暮らす外国人と接したり、実際の現場を訪問したりする活動の中から学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to learn about various foreigners living in Japan, such as foreign students attending Japanese language schools, technical intern trainees, and foreign care workers, and to deepen understanding of their linguistic and cultural backgrounds, their environments, and the problems and challenges they face. Students will learn through activities that involve actually interacting with foreigners living in Japan and visiting actual sites such as inviting guests to class for discussions and interview activities, and going out for fieldwork outside of class time.
5. 学習の到達目標：・日本で暮らす外国人が置かれている現状やその動向を理解し、外国人の受け入れ政策、多文化共生施策について理解を深める
 - ・日本で暮らす外国人の言語・文化的背景、環境の多様性、個別性に対して理解を深める
 - ・文化の多様性を尊重し、異なる文化背景をもつもの同士の円滑なコミュニケーションを実現するために、文化を異にする者の物事の捉え方やコミュニケーションの様相、方略について理解を深める
 - ・異なる文化背景をもつ人々との円滑なコミュニケーションを行うために必要な知識とスキルを有効に使い、実践することができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：-Enhance students' understanding the current situation and trends of foreign residents in Japan, and deepen understanding of policies for acceptance of foreign residents and multicultural conviviality
-Deepen understanding of the linguistic and cultural
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 (10/1) イントロダクション、在留外国人と日本社会、宮城県の外国人について
 - 第2回 (10/8) 外国人介護職員について①
 - 第3回 (10/15) 外国人介護職員について②
 - 第4回 (10/22) 外国人介護職員について③
 - 第5回 (10/29) 外国人介護職員について④
 - 第6回 (11/5) 外国人技能実習生について①
 - 第7回 (11/12) 外国人技能実習生について②
 - 第8回 (11/19) 外国人技能実習生について③
 - 第9回 (11/26) 外国人技能実習生について④
 - 第10回 (12/3) 外国人技能実習生について⑤
 - 第11回 (12/10) 日本語学校留学生①
 - 第12回 (12/17) 日本語学校留学生②
 - 第13回 (1/7) 日本語学校留学生③
 - 第14回 (1/14) 日本語学校留学生④
 - 第15回 (1/21) まとめ12/24 は休講予定。
それぞれのテーマによって、ゲストを招いてディスカッションやインタビュー活動を行ったり、授業時間外に実際の現場にフィールドワークに出かけたりすることがある。授業時間外に活動した場合はその分の授業を休講とし、調整する。先方とのスケジュール調整により授業内容の順番が入れ替わる可能性がある。詳細は初回の授業で説明する。
8. 成績評価方法：
授業での課題 30%、最終レポート 40%、授業への参加態度 30%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。また授業外の時間に実際の現場に見学に行きます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

見学を伴う授業のため、履修者を10名までに制限します。日本語教育学研究室に所属する学生を優先します。

科目名：日本語教育学基礎実習／ Teaching of Japanese Language (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期集中 その他 その他

semester：4 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB98801, 科目ナンバリング：LHM-LIN228J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：海外インターンシップ

2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Education Internship Abroad

3. 授業の目的と概要：この海外インターンシップでは、長期休業中に2週間海外の日本語教育の現場に行き、どんな日本語学習者が海外の日本語教育の現場で学んでいて、どのような授業が実施されているのかを知るとともに、日本語の授業を見学・参加したり、現地学生の日本語学習者とともに日本文化ワークショップを実施したりして実践経験を積む。事前研修では、現地のことば、文化を知るワークショップを開催するだけでなく、異文化適応の過程、異文化受容の態度も学び、現地研修に備える。事前研修の中で日本文化ワークショップの内容の検討も行う。現地研修では、授業見学、参加だけでなく、日本文化ワークショップの内容の検討を現地学生と共同開催することから、異なる言語・文化的背景をもつ現地の日本語学習者とのコミュニケーションを通して、文化を異にする者の物事の捉え方やコミュニケーションの様相、方略について理解を深め、対人関係能力・異文化調整能力を向上させることをねらいとしている。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this overseas internship program, students will visit Japanese language education sites overseas for two weeks during their long vacation to learn what kind of Japanese language learners are studying in overseas Japanese language education sites and what kind of classes are being conducted, observe and participate in Japanese language classes, and conduct workshops on Japanese culture with local student learners of Japanese. In addition to holding workshops to learn about the local language and culture, participants will also learn about the process of cross-cultural adaptation and attitudes toward cross-cultural acceptance in preparation for the on-site training. The content of the Japanese culture workshop will also be discussed during the pre-training. In the on-site training, students will not only observe and participate in classes, but also discuss the content of the Japanese culture workshop with local students, so that through communication with local Japanese language learners with different linguistic and cultural backgrounds, they will deepen their understanding of how people from different cultures perceive things and the aspects and strategies of communication. The aim is to deepen understanding of how people from different cultures perceive things, communication styles and strategies, and to improve interpersonal and cross-cultural coordination skills through communication with local Japanese language learners with different language and cultural backgrounds.

5. 学習の到達目標：・異なることばや文化への理解を深めながら、異文化適応の過程、異文化受容の態度について理解する
・海外インターンシップ実施国における日本語教育の状況を理解し、現地での学習者の日本語学習動機や学習状況、学習環境について理解を深める
・異なる言語・文化的背景をもつ現地の日本語学習者とのコミュニケーションを通して文化を異にする者の物事の捉え方やコミュニケーションの様相、方略について理解を深める
・異なる言語・文化的背景をもつ現地の日本語学習者とのコミュニケーションを通して対人関係能力を向上させる
・異なる

6. Learning Goals (学修の到達目標)：To deepen understanding of different languages and cultures, the process of cross-cultural adaptation, and attitudes toward cross-cultural acceptance.

Understand the situation of Japanese language education in the country where the overseas internship is

7. 授業の内容・方法と進度予定：

事前研修①：オリエンテーション

事前研修②：現地のことば、文化を知るワークショップ、日本文化ワークショップの内容の検討

事前研修③：日本文化ワークショップの内容の検討

事前研修④：日本文化ワークショップの内容の検討、危機管理セミナー、異文化適応・異文化受容について

インターンシップ（2週間）：海外インターンシップ実施校での授業見学、授業参加、現地学生と協力して日本文化ワークショップの実施

事後研修①：振り返り、学びの共有

報告会：インターンシップでの成果の報告

◎2024年度は2月または3月に実施する予定である。インターンシップの日程が決まり次第、周知するとともに、事前研修の日程は、履修学生とともに調整する。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、事前課題 30%、報告書 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：必要に応じた予習・復習が求められます。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

1 2. その他：なし

海外インターンシップは、履修人数に制限があります。日本語教育学研究室に所属する学生の履修が優先されます。日本語教育学研究室以外に所属する学生が参加を希望する場合は、後期が始まり次第、担当教員までお問合せください。(メール：k.shimasaki@tohoku.ac.jp)

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：5 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LB98817, 科目ナンバリング：LHM-LIN307J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：年少者日本語教育

2. Course Title (授業題目)：Japanese language education for children

3. 授業の目的と概要：日本で暮らす外国人の数は年々増加しており、それに伴い学校に在籍する外国人児童生徒等も増加している。この授業では、学校教員を目指す学生を対象に、日本語指導が必要な児童生徒等に関する基礎的な知識を学び、教師として行うべき支援について考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In recent years, the number of foreign residents has increased significantly, and at the same time, the number of foreign children whose mother tongue is not Japanese is also increasing in Japanese schools. In this class, students will develop their understanding of foreign children who need Japanese language supports and gain fundamental knowledge of Japanese language teaching and learning support for them.

5. 学習の到達目標：1. 外国につながる児童生徒等の教育の現状や課題について理解を深める。

2. 子どもの生活や学習上の困難点についての理解を深める。

3. 子どもに対する日本語指導についての基礎的な知識を身につけて、子どもを支援できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

-enhance their understanding of the current situation and issues of education for foreign children

- understand and describe the difficulties in life and learning of children

-gain fundamental

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション

2. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題 (1)

3. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題 (2)

4. 子どもの生活や学習上の困難点 (1)

5. 子どもの生活や学習上の困難点 (2)

6. 子どもへの日本語支援の方法 (1) 受け入れの準備

7. 子どもへの日本語支援の方法 (2) サバイバル・日本語基礎

8. 子どもへの日本語支援の方法 (3) 日本語指導と教科の統合学習

9. 子どもへの日本語支援の方法 (4) 教科の補習

10. 子どもへの日本語支援体験 (1)

11. 子どもへの日本語支援体験 (2)

12. 子どもへの日本語支援体験 (3)

13. 体験の振り返り

14. 教師の役割

15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業への参加態度 30%、授業の課題 40%、最終レポート 30%

9. 教科書および参考書：

文部科学省 (2019)『外国人児童生徒受入れの手引き (改訂版)』

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

*授業では、子どもの支援を実際に行うことを予定していますが、諸事情により実施できない場合には、シラバスの内容を変更することがあります。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB51502, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：話し言葉の教育

2. Course Title (授業題目)：The teaching of oral language skills in a Japanese language course

3. 授業の目的と概要： 学習者が話すことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、会話の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話をする可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、実践し、評価する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to develop students' understanding of the contents and methods to improve oral language skills in the Japanese language classroom. Through activities and exercises, students will learn how to plan, practice and evaluate oral communication classes.

5. 学習の到達目標：(1)話すことを教えるための教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。

(2)目的に応じて話すことを教えるための教室活動を考え、教材を作り、実践し、評価することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:

1. understand various class activities to improve speaking skills

2. create effective class activities and evaluate them through Japanese course

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. コミュニケーション活動の実際

3. コミュニケーション活動の分析

4. 教材作成 1

5. 模擬授業の実施 1

6. 模擬授業の実施 2

7. 授業改善・評価 1

8. 教材分析 1

9. 模擬授業の実施 3

10. 模擬授業の実施 4

11. 授業改善・評価 2

12. シラバスの作成 1

13. シラバスの作成 2

14. 教案作成 1

15. 教案作成 2

8. 成績評価方法：

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

10. 授業時間外学習：毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

同時に日本語教育学実習を履修していること。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB52407, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育におけるフィールドワーク I

2. Course Title (授業題目)：Fieldwork in Japanese Language Education I

3. 授業の目的と概要：この授業では、日本語教育におけるフィールドワークの研究計画の作成、データ収集の方法（インタビュー、観察）について学びます。夏季休業中にデータ収集を行い、後期に開講される「日本語教育におけるフィールドワーク II」で分析、論文の執筆について学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course helps students make research proposal of fieldwork in the area of Japanese language learning and collect qualitative data (interview and observation). The students will collect data during their summer vication, analyze it, and write up a mini-paper in the "Fieldwork in Japanese Language Learning II"

5. 学習の到達目標：・フィールドワークとは何かを説明できる

- ・研究計画を立てることができる
- ・目的に合わせて適切なインタビューができる
- ・目的に合わせて適切な観察ができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

- explain what "fieldwork" is
- make a research plan
- conduct interviews according to their purposes
- conduct observation according to their purposes

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 (4/9)：イントロダクション
 - 第2回 (4/16)：フィールドワークとは
 - 第3回 (4/23)：フィールドワークを使った研究①
 - 第4回 (5/7)：フィールドワークを使った研究②
 - 第5回 (5/14)：研究計画の立案①
 - 第6回 (5/21)：情報収集の方法
 - 第7回 (5/28)：研究計画の立案②
 - 第8回 (6/4)：インタビュー①：種類、質問作成の方法
 - 第9回 (6/11)：インタビュー②：ライフストーリーインタビュー
 - 第10回 (6/18)：インタビュー③：ライフストーリーインタビューの実践
 - 第11回 (6/25)：インタビュー④：文字起こしと振り返り
 - 第12回 (7/2)：観察①：観察とは、記録のつけ方
 - 第13回 (7/9)：観察②：実践、実践の振り返り
 - 第14回 (7/16)：研究計画の検討
 - 第15回 (7/23)：研究倫理
- 4/30 は休講の予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終課題（研究計画書）40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB55206, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コースカリキュラムの評価

2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Course evaluation

3. 授業の目的と概要：日本語コースカリキュラムの評価は、誰が何のために行うのか、コースカリキュラムの中でどのような位置づけにあるのか、何を評価の対象にするのか、どのような種類があるのかについて、学習活動の体験、テスト・ルーブリックの作成、スタンダードの分析等を通じて基本的なことを確認する。そして、コースカリキュラムにおいて、学習目標が評価を規定し、評価が学習活動を規定すること、多面的な評価の重要性を認識することを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to develop students' understanding of the matters to be considered in deciding of evaluation method for language course. Through activities and exercises, students will learn to apply the backward design to Japanese language course.

5. 学習の到達目標：(1)言語教育における評価の現況について、基本的な考え方を理解し、説明できる。

(2)様々な評価の方法について理解し、説明できる。

(3)日本語コースカリキュラムのバックワード・デザインができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn the following:

1.basic principles of evaluation in language teaching

2.various methods of evaluation

3.backward design in Japanese language course

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：）

1. イントロダクション

2. コースデザイン

3. コースカリキュラムの評価(1)

4. パフォーマンス評価

5. コースカリキュラムの評価(2)

6. ルーブリック評価(1)

7. ルーブリック評価(2)

8. コースカリキュラムの評価(3)

9. 伝統的評価と代替的評価

10. テストによる評価(1)

11. テストによる評価(2)

12. スタンダードの分析(1)

13. スタンダードの分析(2)

14. ポートフォリオ評価

15. バックワード・デザインとまとめ

8. 成績評価方法：

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

10. 授業時間外学習：毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

同時に日本語教育学実習を履修していること。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

Semester : 6 単位数 : 2

担当教員：島崎 薫

コード：LB62409, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育におけるフィールドワークⅡ
2. Course Title (授業題目)：Fieldwork in Japanese Language Education Ⅱ
3. 授業の目的と概要：この授業では、前期に開講した「日本語教育におけるフィールドワークⅠ」で計画した調査を夏季休業中に実施し、そこで収集したデータを分析し、ミニ論文としてまとめます。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course helps students analyze qualitative data and write up a mini-paper based on the data collection in "Fieldwork in Japanese Language Learning I"
5. 学習の到達目標：・フィールドワークで得られたデータを適切に分析することができる
・フィールドで得られた知見を発表やミニ論文の形でわかりやすくまとめることができる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
-analyze data collected in the fieldwork properly
-make a presentation and write up a mini-paper based on the result
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回 (10/1)：イントロダクション
第2回 (10/8)：データ収集の報告と振り返り
第3回 (10/15)：データの分析方法
第4回 (10/22)：データの分析①
第5回 (10/29)：データの分析②
第6回 (11/5)：分析の検討①
第7回 (11/12)：分析の検討②
第8回 (11/19)：発表の準備①
第9回 (11/26)：発表の準備②
第10回 (12/3)：発表の練習
第11回 (12/10)：発表会
第12回 (12/17)：発表会フィードバック、論文の形式
第13回 (1/7)：ミニ論文の検討①
第14回 (1/14)：ミニ論文の検討②
第15回 (1/21)：まとめ
12/24 は休講予定です。
8. 成績評価方法：
授業参加態度 40%、最終課題 (ミニ論文) 60%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
前期に開講された「日本語教育におけるフィールドワークⅠ」を履修し、単位を取得していることがこの授業の履修条件です。

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

Semester : 5 単位数 : 2

担当教員：島崎 薫

コード：LB53312, 科目ナンバリング：LHM-LIN319J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コース運営の基礎
2. Course Title (授業題目) : Conducting a Japanese Language Course I
3. 授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、それぞれの授業に必要な教材・教具を準備して授業を実施する力、そしてその自身の実践を振り返って改善案を考えることができる力を養成することを目的とする。前期は、コースデザインの仕方について学び、後期に実施する東北大留学生向けのコースに関して、彼らのニーズ・レディネス、置かれている環境等を分析して実際にコースデザインをするとともに、そのコースの実際の授業の中でどのような教材・教具を使ってどのように教えるのかを検討する。模擬授業を通して自身の授業デザインや教え方、教材・教具などについて振り返り、改善案を考えることができるようになることを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Through the teaching practicum in the spring and fall semesters, students will develop the ability to design Japanese language courses that meet the needs and readiness of learners and their learning environment, prepare the necessary teaching materials and equipment for each class, and conduct the class. They can also enhance the ability to look back on their own teaching and make improvements. In the spring semester, students will learn how to design a course, and actually create a course for the international students at Tohoku University based on the analysis of the needs, readiness, and environment of them, and consider how to teach using teaching materials and tools in actual classes of the course. Through mock classes, students will be able to reflect on their own class design, teaching methods, teaching materials and tools, etc., and come up with ideas for improvement.
5. 学習の到達目標：・実習の目的・目標を理解し、日本語教師として求められる資質・能力と実習がどのように関わっているのかを理解する
 - ・学習者のニーズ・レディネス、環境などを分析し、学習者に合ったコースをデザインすることができる
 - ・コースの目的・目標に合わせて、授業をデザインし、必要な教材・教具を準備することができる
 - ・模擬授業を通して、授業のデザインや教え方、教材・教具などについて振り返り、改善案を考えることができる
6. Learning Goals(学修の到達目標) : After completion of this course, students are expected to:
 - understand the purpose and goals of the practicum and how it relates to the qualities and abilities required of a Japanese language teacher.
 - analyze the needs, readiness, and environment of th
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 (4/10) : オリエンテーション
 - 第2回 (4/17) : コースデザインとは①
 - 第3回 (4/24) : コースデザインとは②
 - 第4回 (5/8) : 模擬授業
 - 第5回 (5/15) : コミュニケーション能力とは
 - 第6回 (5/22) : 学習者の日本語の習熟度とは
 - 第7回 (5/29) : 多様な授業内活動①
 - 第8回 (6/5) : 多様な授業内活動②
 - 第9回 (6/12) : 多様な授業内活動③
 - 第10回 (6/19) : 授業準備・模擬授業①
 - 第11回 (6/26) : 振り返り①、授業準備・模擬授業②
 - 第12回 (7/3) : 振り返り②、授業準備・模擬授業③
 - 第13回 (7/10) : 振り返り③、授業準備・模擬授業④
 - 第14回 (7/17) : 振り返り④、授業準備・模擬授業⑤
 - 第15回 (7/24) : 振り返り⑤まとめ5/1は休講予定です。
8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。
10. 授業時間外学習：授業外の時間に授業見学を行います。実施時間は授業の中で相談して決めます。また、状況によって実習の形態に変更が出る可能性があります。
11. 実務・実践的授業/Practical business
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時、後期 水曜日 4講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB63310, 科目ナンバリング：LHM-LIN319J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コースの運営と改善

2. Course Title (授業題目)：Conducting a Japanese Language Course II

3. 授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、それぞれの授業に必要な教材・教具を準備して授業を実施する力、そしてその自身の実践を振り返って改善を図ることができる力を養成することを目的とする。後期は前期にデザインしたコースを実際に運営し、授業を行いながらコースの改善、授業の改善に取り組む。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Through the teaching practicum in the spring and fall semesters, students will develop the ability to design Japanese language courses that meet the needs and readiness of learners and their learning environment, prepare the necessary teaching materials and equipment for each class, and conduct the class. They can also enhance the ability to look back on their own teaching and make improvements. In the fall semester, the students will actually run the courses designed in the spring semester and work on improving the courses and classes while teaching.

5. 学習の到達目標：・デザインしたコースを他の学生と協力しながら運営することができる

・単独で教壇に立って授業を実施することができる

・自身の実践を客観的に分析することができる

・自分やグループのメンバーの実践を振り返り、授業自体やコース全体の改善を図ることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

-design and run a course in collaboration with other students.

-teach a class independently

-analyze one's own practice objectively

-improve the classes and the course as a whole by reviewing

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 (10/2)：コース開講の準備①

第2回 (10/9)：コース開講の準備②

第3回 (10/16)：模擬授業①

第4回 (10/23)：模擬授業②

第5回 (10/30)：模擬授業③

第6回 (11/6)：模擬授業④

第7回 (11/13)：模擬授業⑤

第8回 (11/20)：振り返り①

第9回 (11/27)：振り返り②

第10回 (12/4)：振り返り③

第11回 (12/11)：振り返り④

第12回 (12/18)：振り返り⑤

第13回 (1/8)：振り返り⑥、コースデザインの評価

第14回 (1/15)：授業分析中間発表

第15回 (1/22)：コース全体の振り返り、まとめ

12/25 は休講予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、教案・振り返り 30%、授業分析報告書 20%、実習報告書 20%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：授業外の時間に教壇実習（対面）を行います。実施時間は授業の中で相談して決めます。また、状況によって実習の形態に変更が出る可能性があります。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：後期集中 その他 その他

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB98825, 科目ナンバリング：LHM-LIN319J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：海外インターンシップ

2. Course Title (授業題目)：Japanese language education internship abroad

3. 授業の目的と概要：これまでに受講してきた日本語教員養成課程を通して得た知識とスキルを踏まえて、長期休業中に約2週間海外の日本語教育現場に行き、どのような学習者がどのような学習環境で日本語を学習しているのかを知り、どのような日本語教育が行われているのかを見学し、さらに現地日本語コースの教員の指導のもとで日本語を実際に教えることを体験する。同時に現地における異文化や異文化コミュニケーションを体験する。なお、本年度は2、3月中に実施する予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This class provides students with opportunities to participate in Japanese language education internship abroad for 2 weeks. The students will see what people are learning Japanese language overseas and how Japanese language classes are conducted, and have experience to teach Japanese in classes as a student teacher.

5. 学習の到達目標：1. 海外の日本語教育と学習者の多様性を知る

2. 海外の日本語教育の現場を見て学ぶ

3. 海外の日本語教育の現場で実際に教える体験をする

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

- understand Japanese language education and a variety of Japanese language learners overseas
- observe Japanese language teaching classes overseas
- get experiences to teach Japanese language

7. 授業の内容・方法と進度予定：

スケジュール (予定)

事前活動①：オリエンテーション

事前活動②：現地教員との打ち合わせと準備

事前活動③：現地とのオンライン日本語クラス参加

事前活動④：進捗状況報告と最終打ち合わせ

海外インターンシップの実施 (約2週間)

事後活動①：振り返り、報告書の作成

事後活動②：報告会の開催

日程の詳細は、インターンシップの日程が決まり次第、履修学生と調整する。

8. 成績評価方法：

事前課題 50%、事後報告書 50%

9. 教科書および参考書：

授業内で指示する。

10. 授業時間外学習：基本的に海外インターンは授業時間外に行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

- ・3年次の日本語教育学実習(前後期)を履修済であること。
- ・海外インターン先の事情により、開講されないことがある。
- ・履修人数に制限があるため、履修希望者は、学期前に担当教員に連絡し相談すること。